

提案者 (所属) MP 実習 1 班 / (氏名) 瀬島由実加

プロジェクト名称	常磐線すくすくエリア計画-子育てサロン@さんぱるの設置(重点整備計画)
現状(問題点,背景)	土浦市内を走る常磐線は、2015 年春に東京駅まで乗り入れることが決定している。これにより、常磐線沿線はよりベッドタウンとしての人気が高まるエリアとなることが予想される。 また、土浦市内は「わらべ」と「のぞみ」という 2 カ所の子育て交流サロンがあるが、いずれも駅からは離れたところにある。 荒川沖駅直結のショッピングセンターである「さんぱる」は、メガドンキホーテを施設内に持ち多くの専門店も入っているものの、空き店舗が目立ち賑わっているとはいえない状況である。
目的・趣旨	常磐線沿線をベッドタウンとしてより魅力アップさせるために、「子育て」をキーワードとして特色付けたい。そこで土浦市の子育て支援施設の中核となる施設を荒川沖駅近くにつくり、常磐線沿線エリアを「子育て・教育のまち」として PR する拠点とする。沿線の人口を増加させることを最終目的とする。
内容	内容 1:さんぱるの空き店舗(2 階 計 195 坪)スペースを利用し、子育て世代にターゲットを絞った 2 つの施設を設置する。 ○すくすくコミュニケーションルーム …【対象】未就学児～小学生、親、妊婦 簡易なシアターを設け、対象者は無料で入場でき、子ども向けのビデオや映画を上映したり、マタニティ教室や離乳食教室(どちらも土浦保健センターで行われている)などの教室を開いたりする多目的なスペースとする。 未就学児の一時預かりも行う。 ○子育てほっとカフェ …【対象】未就学児とその親、妊婦(カフェは対象者以外も利用可) 親同士の交流を目的としたカフェ。 未就学児をすくすくコミュニケーションルームで一時預けている間、ここで親はほっと一息ついたりさんぱる内で買い物をする等自由な時間を過ごせるようにする。 また、カフェ内部は子育てに関する情報を掲示し、未就学児を持つ親と妊婦にのみ飲食の割引がされるようにする。 ここでの交流を通じて出産や子育てに関する情報共有や相談を気軽にできることを目指す。 内容 2:さんぱる内の店で子どもやその親をターゲットとしたイベントやキャンペーン、店舗展開を行う。 →上記の施設の設置と合わせてさんぱる全体で子どもとその親をターゲットとしたマーケット戦略を立て、相乗効果を狙う。
将来目標	常磐線沿線エリアが子育てに適したエリアであることの認知度を高め、人口の増加を目標とする。
期間	平成 26 年 4 月～9 月:プラン詳細検討 10 月～12 月:設営作業 平成 27 年 1 月～3 月:試験的に営業 4 月～:正式に営業開始

場所	さんばる 2 階空きスペース(195 坪)
対象者	妊婦、未就学児～中学生、親
運営主体	候補:NPO 法人いろは など
運営方法	設営費、人件費は土浦市が負担する。家賃はさんばるを運営する荒川沖商業協同組合の負担とする（実質は家賃免除。子育て施設をつくることによってさんばるの集客が上がることが予想されるため、荒川沖商業協同組合にも利益がある。よって家賃を免除することを提案する）。その後の運営は NPO 法人や市民団体に委託する。
イニシャルコスト	設営費(家具、備品など)
資金源	市予算
ランニングコスト	家賃・施設維持費・人件費
資金源	家賃は荒川沖商業協同組合が負担、その他は市予算
今後の課題	メガドンキホーテのイメージから、子育て施設をつくるには現在のさんばるはあまり良い印象ではない。メガドンキホーテも含めたさんばる全体がイメージアップを図って施設を改革する努力が必要となる。